

お知らせ

●都市交通についての地域懇談会が開かれました。

仙台都市圏総合都市交通協議会では、地域の各方面で活躍の方々にお集まりいただき、3月17日・東部地域(塩竈市、多賀城市、七ヶ浜町、利府町)、18日・南部地域(名取市、岩沼市)、19日・北部地域(仙台市泉区、大和町、富谷町、大衡村)、30日・仙台地域(仙台市)で、都市交通についての地域懇談会を開催しました。懇談会では仙台都市圏の交通の現状や課題などについての意見を交換し、これらを今後の交通計画の検討に反映します。詳しい内容については、次号のニュースレターやホームページでお知らせします。

●交通実態データの公表を始めます。

宮城県・仙台市では、平成14年に実施した家庭訪問調査を集計した仙台都市圏の交通実態データを平成16年7月より公表します。この集計データから、どのような人がどのような目的でどのような交通手段で移動しているのかがわかります。

詳しい集計内容やデータ提供方法についてはホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.miyagi.jp/tosikei/pt/>)

皆様が普段感じている都市交通について  
ご意見をいただきました。

今後も皆様からのご意見を参考に、これからの  
仙台都市圏の都市交通計画を作成します。

これまでのパーソントリップ調査の流れ  
についてお問い合わせがありました。

パーソントリップ調査は、3大都市圏(東京、中京、京阪神)をはじめ道央、仙台、広島、九州北部の地方の中核都市圏において昭和42年度からほぼ10年おきに行われております。さらに全国の地方中核都市圏においても都市の動向に応じて実施しております。

仙台都市圏は昭和47年度の第1回調査を皮切りに、宮城県・仙台市が共同事業により10年おきに通算3回(第1回昭和47年、第2回昭和57年、第3回平成4年)実施してきており、今回が第4回目となります。

次回は皆様からいただきました  
意見をご紹介します。

計画策定の進め方

仙台都市圏総合都市交通協議会は、  
みなさんと共に  
計画の策定を進めています。

平成14年度 現在の交通状況を調べました。

平成15年度 交通問題を解消するために検討を行いました。

平成16年度 仙台都市圏の総合的な都市交通計画をつくります。

仙台都市圏総合都市交通協議会  
宮城県・仙台市

問い合わせ先

- 宮城県都市計画課 企画調査班 022-211-3134
- 仙台市交通計画課 調査係 022-214-8302

ご意見をお寄せください。

[e-mail/sendai-pt@pref.miyagi.jp](mailto:sendai-pt@pref.miyagi.jp)

(ニュースレター「ひと・まち・交通」を読まれた感想や、パーソントリップ調査の結果についてのご意見をお寄せください。スペースが足りないときは別紙でFAXをお願い致します。)

このままFAX022-211-3295へ

■ご意見

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

お名前 \_\_\_\_\_ 男・女 \_\_\_\_\_ 才 \_\_\_\_\_ 電話 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

ご住所〒 \_\_\_\_\_ お仕事 \_\_\_\_\_

ひと・まち・交通

ニュースレター第2号ができました



●特集

- パーソントリップ調査の結果速報(2)
- ・自動車の利用は、買物やレジャーなどで増加
- ・女性の自動車利用が伸びる
- ・バスは利用者が減少、鉄道は維持
- ・居住地域で、交通手段に違い

●お知らせ

- ・地域懇談会が開かれました。
- ・交通実態データの公表を始めます。

FAXの方はここで切り取って左側をお送りください。



パーソントリップの  
ホームページを  
開設しています。  
みなさんでご覧ください。

ホームページアドレス(宮城県): <http://www.pref.miyagi.jp/tosikei/>  
ホームページアドレス(仙台市): <http://www.city.sendai.jp/toshi/kotsukeikaku/>  
E-mailアドレス: [sendai-pt@pref.miyagi.jp](mailto:sendai-pt@pref.miyagi.jp)



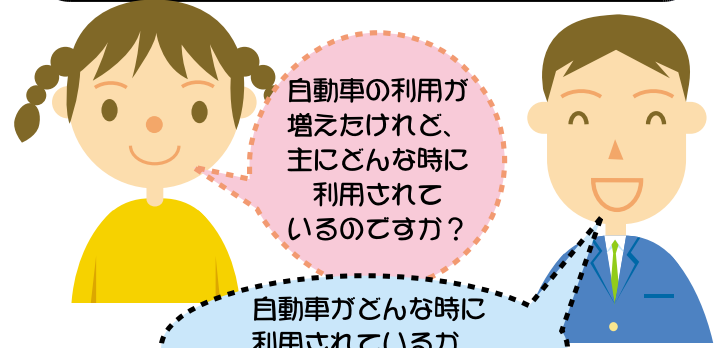


「ひと・まち・交通」創刊号ではパーソントリップ調査とは何か、そのデータから女性・高齢者のトリップ数が増えたこと、自動車利用が増えたことなどを紹介しました。今回は、自動車を中心とした生活が定着している仙台都市圏の様子を紹介します。

# この10年間で、さらに自動車が生活に深くかかわってきました。

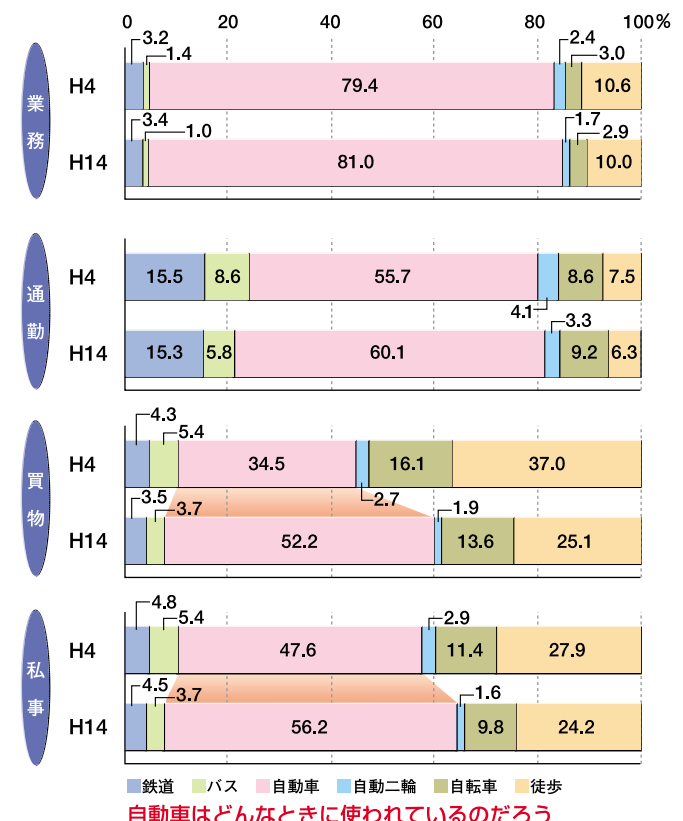


## 自動車の利用は、買物やレジャーなどで増加しています。



自動車の利用が増えたと、主にどんな時に利用されているのですか？

自動車がどんな時に利用されているか、下のグラフで説明しよう。

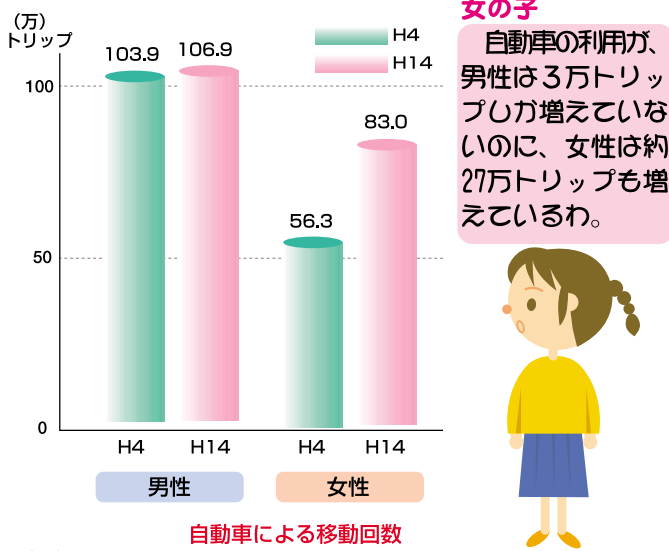


先生 業務ではその8割に自動車が使われ、通勤では6割、買物は5割強、私事は6割弱に自動車が利用されている。利用の割合の変化を10年前と比べてみると、業務と通勤は大きな変化がないのに対して、買物と私事はどちらも大きく増加していることがよく分かるね。

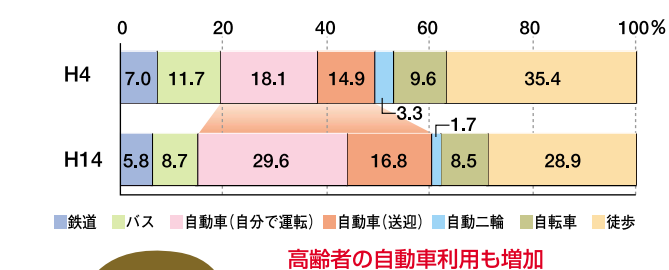
- 用語の説明
- 業務とは：配達や会議、建設、農林業作業など仕事のための移動
  - 通勤とは：自宅から通勤先への移動
  - 買物とは：買物のための移動

## 女性の自動車利用が50%も伸びました。

男子 以前と比べて何が変わったのだろう？  
先生 この10年間で一番大きな変化は、女性の自動車利用が増えたことだろうね。グラフを見ると、自動車のトリップ数が男性は微増なのに対して、女性は約50%も増えている。



先生 さらにお年寄りも、自分で運転したり送迎してもらった場合を合わせ、自動車の利用が大きく増えている。利用の割合を10年前と比較すると、自動車が増えて、徒歩とバスが低下しているのが分かるだろう。

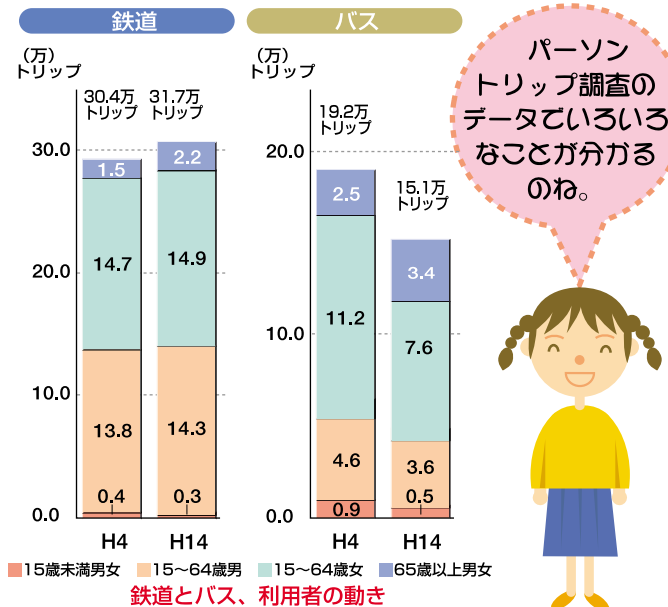


男子 自動車の利用がこんなに増えると、他の交通手段に影響はないのですか？

- 私事とは：食事、習い事、通院、送迎、娯楽・レジャーなどのための移動
- 人口集中地区とは：人口密度4000人以上(1平方キロメートル当たり)が隣接して、人口が5000人以上の地域
- 大規模商業施設とは：店舗面積1000㎡以上の店舗

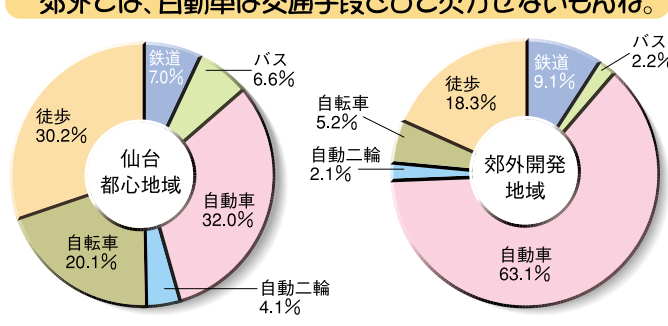
## バスは利用者が減少、鉄道は維持。

先生 もちろん、大きな影響を受けているよ。例えば、バス利用者のトリップは15～64歳の女性を中心に2割も減少している。一方で、バス利用者は65歳以上男女の増加と、鉄道利用者は全体として増加していることに、注意しなくてはいいね。



## 居住地域により、交通手段の利用に大きな違い。

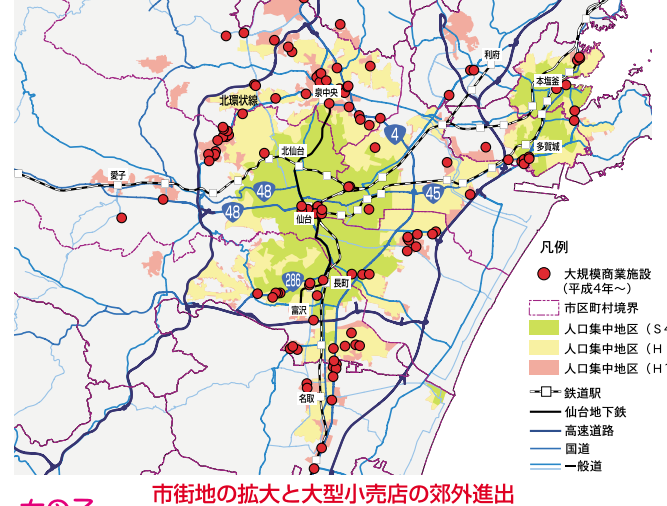
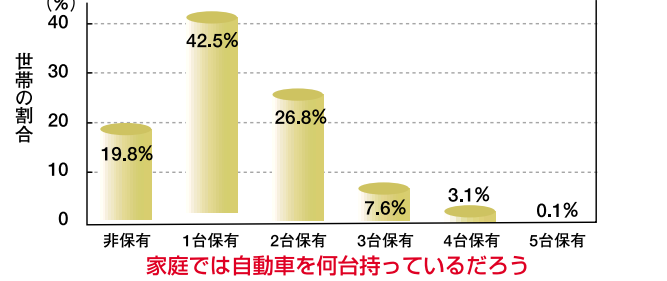
先生 おもしろいデータを見せよう。下は仙台市の都心地域に住んでいる世帯と、郊外の開発地域に住んでいる世帯の代表交通手段の割合を比べたものなんだ。都心地域の人たちの交通手段が割合、均等に分散しているのに対して、郊外の開発地域の人たちは自動車に大きく依存していることが分かるだろう。



住んでいるところで、交通手段はすい分違う  
注) 郊外開発地域：仙台都心から9～15km離れていて、平成4年から平成14年にかけて人口が1.5倍以上増加した地域としました。

## 背景には、自動車に頼らざるを得ない生活環境が。

先生 こうした背景としては、自動車保有台数や運転免許取得者の増加はもちろんだけれど、自動車に頼らざるを得ない郊外での市街地開発や、それと連動した大規模商業施設の郊外進出という要因も見逃せないね。



女子 いろいろな要素があるのね。  
先生 私たちの生活は自動車に頼っている面が大きだけれど、一方で渋滞や事故、環境への影響など、問題もあるよ。

男子 自動車も、いいことばかりではないのだから。  
女子 じゃ、どうすればいいの？  
先生 特に自動車でなくてもいい場合は公共交通を利用するなど、車に頼りすぎない社会をめざすことが必要じゃないかな。

2人 車の利用はなるべく控えることですね。  
先生 今回は、自動車を中心とした生活が定着している仙台都市圏の様子を紹介しました。次号では、交通に対する地域の皆さんの生の声を紹介することにしよう。